



KPUNews



2011年 年頭挨拶

—本分に徹して、本分を尽くす—

理事長 田村 正昭

新年明けましておめでとうございます

世界も日本も多事多難のうちに新年の幕開けとなりました。国内では政治・経済の混迷が続いており、長引く経済不況、少子・高齢化と人口減少問題など多くの課題を抱えて新年を迎えました。このような時代背景にあって、大学が直面する状況は益々厳しいものとなることを覚悟しなければなりません。受験生の確保も然る事ながら、「就職氷河期」と言われるように大学は出たけれど就職先が無いと言われる厳しい環境下において、本学卒業生全員が就職できる手立てを講ずることが、大学に課せられた使命であります。進路支援部を中心に就職先確保に向けて、学長とともに陣頭に立ち最善を尽くし、万全を期す所存です。関係各位の圧倒的なご支援・ご協力をお願いします。

昨年の年頭に当たって、私は、大学を取り巻く環境は混迷期にありこの難局を打開するために、全員が原点に立ち返り個々人それぞれが、明確な目標を立て、立てた目標は必ず達成するとの強い信念を持ち、日々研鑽努力を積み重ねることにより結果とし

て名実ともに日本一の薬科大学を目指すとの決意を表明いたしました。

皆さん、昨年を振り返って自分が立てた目標の達成度について、自己点検し自己評価をして頂きたい。その上で今年度の新たな挑戦目標を設定し、その達成に向けて各人が努力して取り組み充実した一年を送って頂きますようお願いいたします。

2006年4月に6年制薬学教育が導入され今年が6年制の完成年に当たります。学部学生の在学期間が1.5倍となりましたので、これに伴って学部生の在籍者数も4年制時の1.5倍となり本学も規模の面では、2000人を超える学生が集う全国でも有数の薬科大学となります。この多くの学生諸君に薬学についての幅広い知識と、深い専門知識を習得して貰うために行き届いた教育を行うとともに、6年に亘る長期間のキャンパスライフを快適に過ごせる大学として、施設整備の充実など快適な環境作りに取り組みます。

以下、今年度の行動指針ならびに大学として取り組む重点テーマにつきまして紹介し、職員各位ならびに学生諸君のご理解とご協力を熱望いたします。

CONTENTS

2011年頭挨拶	理事長 田村 正昭	1~2	文部科学省戦略的大学連携支援事業	
年頭のご挨拶	学 長 乾 賢一	3	FD連携プロジェクト ポスト視察報告	18~19
中央庭園および(仮称)音楽系クラブ練習棟について		4	教育後援会からのお知らせ	20
特集 Library News		5~11	受賞・掲載	21~23
2010年度後期試験日程		11	「京薬祭」を終えて	23~24
第1回学生生活調査 調査結果概要について		12	京都薬科大学一般公開講座開催	24
2011年度一般公募制推薦入学試験結果		12	クラブだより	25
異文化体験		13~16	お知らせ	26
10月のオープンキャンパス開催		17	京薬会だより	26
卒業生からのメッセージ		17	京都薬科大学奨学寄附金募集について	27
			京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	28

「本分に徹して、本分を尽くす」

「光陰、矢の如し」と言いますが、私が、理事長に就任して31ヶ月が経過しました。この間、自分なりに理事長としての職務に全力を挙げ、本学の発展に向けて努力して来たつもりですが、新しい年を迎えるに当たり、自戒を込めて過ぎこし方を冷静に振り返りますと、内心忸怩たるものがあります。今年

は、あらゆる艱難にめげることなく常に前向きに、自らの本分に徹底して取り組み、後顧の憂いを断つ決意であります。

本学に集う全ての人が、使命感を持って自分の役割・任務を全うされることが、薬科大学No.1への第一歩だと認識しております。従いまして、理事長、学長は勿論のこと、職員、学生、さらに卒業生、教育後援会の皆様方々あらゆる本学関係者が、それぞれの立場を認識していただき「**本分に徹して、本分を尽くす**」ことを本年の行動指針にしたいと思えます。ご理解を賜りご支援、ご協力をお願い申し上げます。

躬行プランを有終の美で飾る

現在進行中の第1期中期計画（躬行プラン）は、2007年度～2011年度までの5年間の中期計画も全職員の協力のおかげで、ほぼ順調に推移いたしております。現在のステージは、PDCAのC～Aにありますので、残された期間内に遅滞している項目について問題点を明確にし、その改善に関係者が一致協力し執念を持って遣り上げ有終の美を飾り、次期中計に繋いでいただきたいと念じております。

第2期中期計画の策定

第2次中期計画（2012年～2016年）の策定委員長には、土屋理事が任に当たり、教学関係の責任者として安井教授が担当されることになりました。委員は、教育職員につきましては、乾学長から、事務職員につきましては村澤局長から任命され、委員会も本格的に活動を開始いたしました。委員の皆様には日常業務で多忙の中をご協力いただき感謝いたします。

また、委員以外の皆様も傍観者でなく全員が参画し、本学の発展に前向きな提案を提供するなど協力下さいますよう切望いたします。

生涯教育センターの立ち上げ

生涯教育につきましては「躬行プラン」の重点項目として採り上げております。卒業生に対する生涯教育の充実につきましては、薬学教育機関の評価を行う薬学評価機構の評価基準の一つに「薬剤師の卒後研修や生涯教育などの資質向上のための取組に努めていること」と明記されており、本学が取り組まねばならない重要な課題の一つです。

昨年10月の教授会で、乾学長から「生涯教育センター設立準備委員会」の準備委員長に谷口教授を指名され、満場一致で谷口教授が選任され、10月22日の理事会で承認されました。今後、詳細に亘って検討を加え、真に薬剤師の資質向上に貢献できる「生涯教育センター」を立ち上げます。

施設・環境整備について

中央庭園整備工事

6号館と図書館棟の跡地に緑地化計画の一環として中央庭園の整備工事を行っております。学生の皆さんから要望が多かった「憩いの場」を緑に囲まれた中央庭園として、卒業式、入学式に間に合わせるよう2011年3月竣工予定で進めております。暫くの間工事でご迷惑をお掛けしますが、完成時を楽しみにご協力下さい。

音楽系クラブ練習棟(仮称)新築工事

音楽系クラブの練習棟をグランド北側の三条通りに面した一角に4月竣工の予定で建設を進めております。この建物は、管弦楽部、軽音楽部、マンドリン部、ユーベルコール部、の音楽系クラブの練習棟で、防音対策を施し、周辺環境にも十分配慮しております。使用ルールを策定しますので、関係クラブはルールの遵守徹底を要請いたします。

新動物研究センター新築工事

現在の動物研究センターは、築後30年を経過し建物の老朽化と設備の機能劣化によるトラブルが目立ちますので、このたび新しく動物研究センターを建築することにいたしました。現在子細に亘り検討を加えており、2013年1月の竣工を予定しております。

以上の建設を持ちまして、毎年皆様にご迷惑を掛けてきました建設工事も一段落いたします。もう暫くの間皆様のご協力をお願いいたします。

長期実務実習第1クールを終えて

長期実務実習を終えて、久方ぶりに大学へ帰ってこられた学生の皆さんに対する評判は、内外ともに総じて評判が良いので安心しました。「他人の飯を食う」と言う諺がありますが、世間の荒波にもまれ、さまざまな経験をする事は人生にとって必ずプラスになります。何事も始めた時の真剣な心構え決意をいつまでも忘れることなく、立派な医療人に育っていただくことを学生諸君に期待します。

学生満足度調査、学生生活調査

私は、本学運営に当たって、学生並びにご父母の皆様方満足度を如何に高めるかを機軸に据えて取り組んでおります。事を決する際の判断資料として大変参考になりますのが、「学生満足度調査プロジェクトチーム」「学生生活調査プロジェクトチーム」

からの報告書やデータです。私にとりまして「**学校運営の羅針盤**」とも言える貴重なものです。各プロジェクトチームのメンバー並びに協力頂いた学生諸君に感謝いたしますとともに、引き続きまして今年度も宜しく願います。

終わりに当たって

今年も集団の「明るさ」「楽しさ」「団結力」は、「声をかけあう」ことに始まる事を念頭におき朝の挨拶運動への協力をお願いし、良い年であることを祈念申し上げます。



年頭のご挨拶

～輝ける薬学を実現させるために～

学長 乾 賢一

皆様、新年明けましておめでとうございます。新たな夢と希望を抱いて新しい年をお迎えになったことと存じます。本学の学長を拝命して9ヶ月が過ぎました。大学の各種行事、会議などを通して、この間に賜りました皆様のご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。

今、我国の政治と経済・財政は混迷を極め、外交、医療・介護、社会保障、教育・科学技術、環境などの重要案件に十分な解決策を打ち出せず、社会全体に慢性的な閉塞感が漂っています。高等教育を支える大学も、国公立を問わず一段と厳しい運営を迫られています。このような状況下にも拘らず、全国の薬科大学・薬学部では、教員、学生いずれも6年制薬学教育改革という未体験ゾーンの中で、幾多の辛苦を伴いながらも新しい取り組みが着実に進められてきました。すなわち、昨年5月から懸案の病院、薬局での長期実務実習が始まりました。実習指導者の養成、実習施設の確保などにつきましては、大学、薬剤師会、病院薬剤師会が一丸となって準備を進めてきたおかげで、実務実習は概ね順調に進んでいます。そして、実務実習に対する評価は、学生、教員、実習指導者からいずれもポジティブな意見が多く寄せられています。特に本学では、教員や事務職員から「学生が大きく成長して実習から帰ってきた」という声を多数聞いており、うれしい限りであります。一方、大学院修士課程の学生が激減したために、研究の推進に支障を来していることは否めません。これは、大学のみならず薬学関連学会にとっても死活問題であるため、これまで様々な議論、工夫がなされてきました。例えば、昨秋の第60

回日本薬学会近畿支部総会・大会では、初めての試みとして学部学生の発表セッションが設けられましたが、演題数、参加者数は予想を超え、大盛況であったと聞いています。従来のもとの概念にとらわれるのではなく、やはり発想の転換が必要でありましょう。課題発見、問題解決型の教育に力を注ぎ、Science (科学)、Art (技術)、Humanity (人間性) のバランスのとれた質の高い薬剤師を養成することは、学術研究の推進にも繋がると考えます。

ところで、上杉鷹山が瀕死の米沢藩(山形県)を立て直すのに、藩の武士や藩民に対して立て直しの心構えを説いた「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉があります。捉え方は様々でありましょうが、これは現在の我々にも当てはまるように思います。そしてこれを実践するためには、大学構成員一人ひとりが目的意識を明確にして、目標を達成するためにはどうするかを考えること『創意』、そして自己満足に終わるのではなく常にチャレンジ精神を持つこと『挑戦』が大切であると思います。

今、薬系大学は激動の変革期にあります。本学は126年の伝統と実績を有しており、またすばらしい建物の整備が整いました。輝ける薬学の実現に向けて、教員、事務職員、学生を含むすべての構成員が一丸となって特徴ある教育・研究を展開し、世界に向けて情報発信をしようではありませんか。

最後に、皆様のご多幸、ご活躍をお祈りすると共に、引き続き絶大なご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

中央庭園および（仮称）音楽系クラブ練習棟について



中央庭園



テラス2



テラス1



（仮称）音楽系クラブ練習棟

仮駐輪場として使用していたスペースが、2011年3月に緑化された中央庭園(3,900㎡)に生まれ変わります。愛学館の食堂前には京楽祭開催時に舞台として使用できる円形ステージで、普段は演習やクラブ・サークルの打合せにも活用でき、友達と食事をしながら歓談ができる半屋外のカフェテラスを設置します。また、躬行館の図書館棟前には、授業の休憩時間や空いた時間に友達と語り合いながら勉強や飲食ができる屋根付きのテラスを設置します。テラスの他にも庭園内にベンチを設置し、学生の皆さんから要望が多かった「憩いの広場」を提供します。また、庭園の植物には雨水を使用して散水できるよう地下に設備を整え、エコを意識した施設整備を心がけております。

また2011年4月には、グラウンドに（仮称）音楽系クラブ練習棟が完成します。管弦楽部・マンドリン部・ユーベルコール部が練習場所として使用していた6号館・図書館棟は既に解体され、軽音楽部については部員が100名近い大所帯であり、これらの音楽系クラブは練習場所の確保に困難をきたしておりました。学生満足度調査でも練習スペース提供への要望が多く寄せられたため、鉄筋コンクリート造2階建てで、1階に3つの練習室と倉庫、2階に2つの練習室と共同練習室を備えた練習棟を建設する運びとなりました。建物は三条通に面しており、全体的な防音はもちろんのこと、1階の軽音楽部の練習室には大きな音にも対応できるよう防音壁を厚くするなど、周辺環境にも配慮したつくりとなっています。

2010年11月に竣工した立体駐輪場の壁面についても、つる性植物で駐輪場を覆い、場内を涼しく保てるようにします。更に、次年度以降の計画として、屋上には太陽光発電ソーラーパネルを設置し、場内の照明はソーラーパネルで発電された電気に対応するなど、引き続き、人と地球に優しい施設整備に努めて参ります。

特集

Library News

以前「全ての学生と職員の皆様方、これが大学の図書館かと言う不満もやっと解消されることになりそうです。つまり、『躬行館』に「図書館棟」が併設されるからです。使い勝手が悪く閲覧室も狭くて暗い旧図書館に替わって新しく明るい図書館が開設されるのです」という文を書いたことがあった。これを読んでも1年次生の諸君は訳が分からないであろう。そう、今の図書館はまことに現代的で美しく機能的で使いやすい施設であるからだ。閲覧室の席数も十分にあり、以前のような自習のための席の取り合いなどはおそらく昔話になったことであろう。

学生諸君はこの図書館を十二分に利用し活用していることと思うが、今回の特集記事では建物ではなく、9月に新しくなった図書館のシステムについての詳細な利用・活用法が紹介されている。学生諸君はこの記事を熟読して、そのシステムを思う存分に活用し勉学に励んでほしい。

2010年9月に図書館システムが新しくなり、利用者みなさんが便利に使える「マイライブラリ」という機能が加わりました。利用者一人ひとり専用の図書館情報ページで、図書館からの連絡や今借りている図書を確認することができます。インターネットに接続した環境であれば、どこからでも利用できます。今回はマイライブラリの活用法と、蔵書資料検索結果の見方について紹介したいと思います。

マイライブラリの活用法

1. ログインする

<http://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>

The screenshot shows the library's website interface. At the top, there's a navigation bar with the university name and logo. Below that, a search bar and a calendar are visible. The main content area includes a 'お知らせ' (Notice) section, a 'マイライブラリ' (My Library) section, and a 'ログイン' (Login) button. A black circle highlights the login form, which contains fields for 'ID' and 'PASS'. A text box with a white background and black border is overlaid on the screenshot, pointing to the login form with a blue arrow. The text inside the box reads: '情報処理教育研究センターから発行されたIDとP.W.でログインします。' (Log in with the ID and P.W. issued by the Information Processing Education Research Center).

2. マイライブラリが表示される

[マイライブラリの機能]

- 図書館からのお知らせ
- 新着資料情報 ①
- 依頼状況
- 貸出状況
- マイフォルダ ②
- 操作メニュー
- 学外文献複写申込 ③
- メールアドレス (設定変更) ④

①～④の概要をご紹介します！



3. マイライブラリの機能を使う

①新着資料情報

「新着資料情報」には、新着資料(図書館が過去30日以内に受け入れた資料)の中に、あなたが指定した条件にあてはまる資料があったときその情報を表示するように設定できます。
条件は、「新着資料の条件」から設定して下さい。

②マイフォルダ

資料検索結果をブックマーク登録できます。ブックマークはマイフォルダに保存することが可能です。気になる資料をチェックして後から一覧を見るときに便利です。フォルダごとに名前を付けて管理することも可能です。

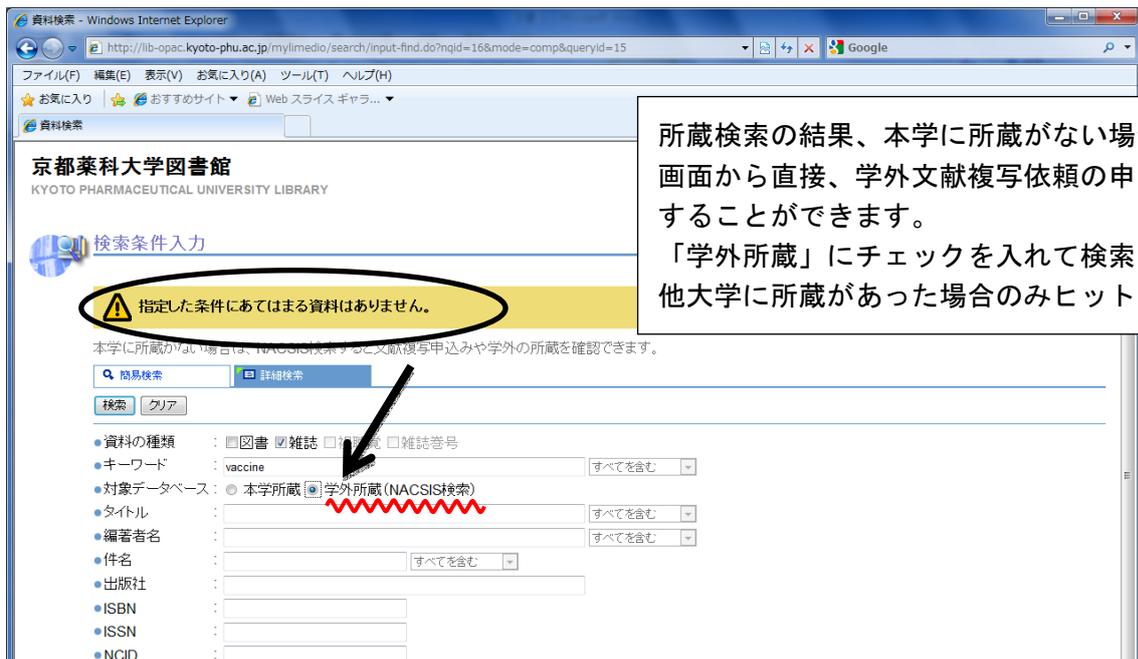
③学外文献複写申し込み (1)

～学内に資料のないことが明らかな場合～

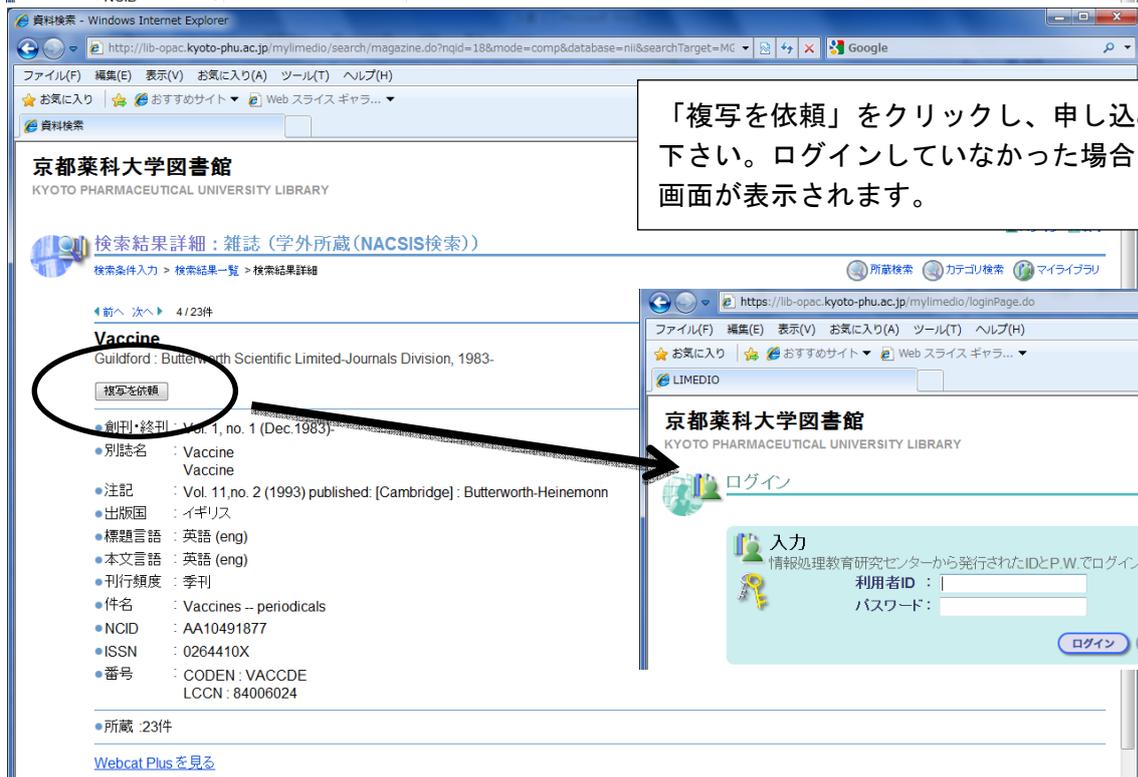
注意事項を必ず読んで理解したうえで、依頼する文献の情報を正しく入力して下さい。その後「確認に進む」をクリックして「この内容で依頼」して下さい。なお、学部生はマイライブラリから依頼できません。図書館カウンターにてお申込み下さい。

③学外文献複写申し込み (2)

～所蔵検索の結果、本学に資料がなかった場合～



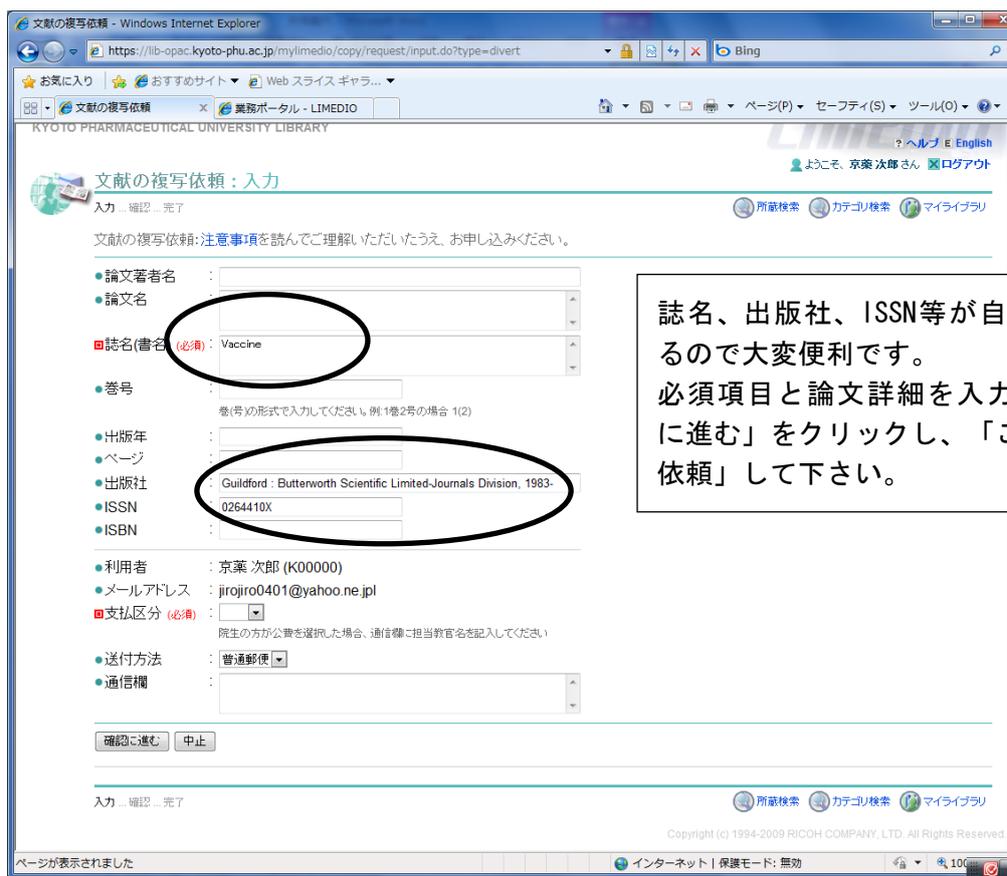
所蔵検索の結果、本学に所蔵がない場合、この画面から直接、学外文献複写依頼の申し込みをすることができます。
「学外所蔵」にチェックを入れて検索をすると他大学に所蔵があった場合のみヒットします。



「複写を依頼」をクリックし、申し込みをして下さい。ログインしていなかった場合ログイン画面が表示されます。

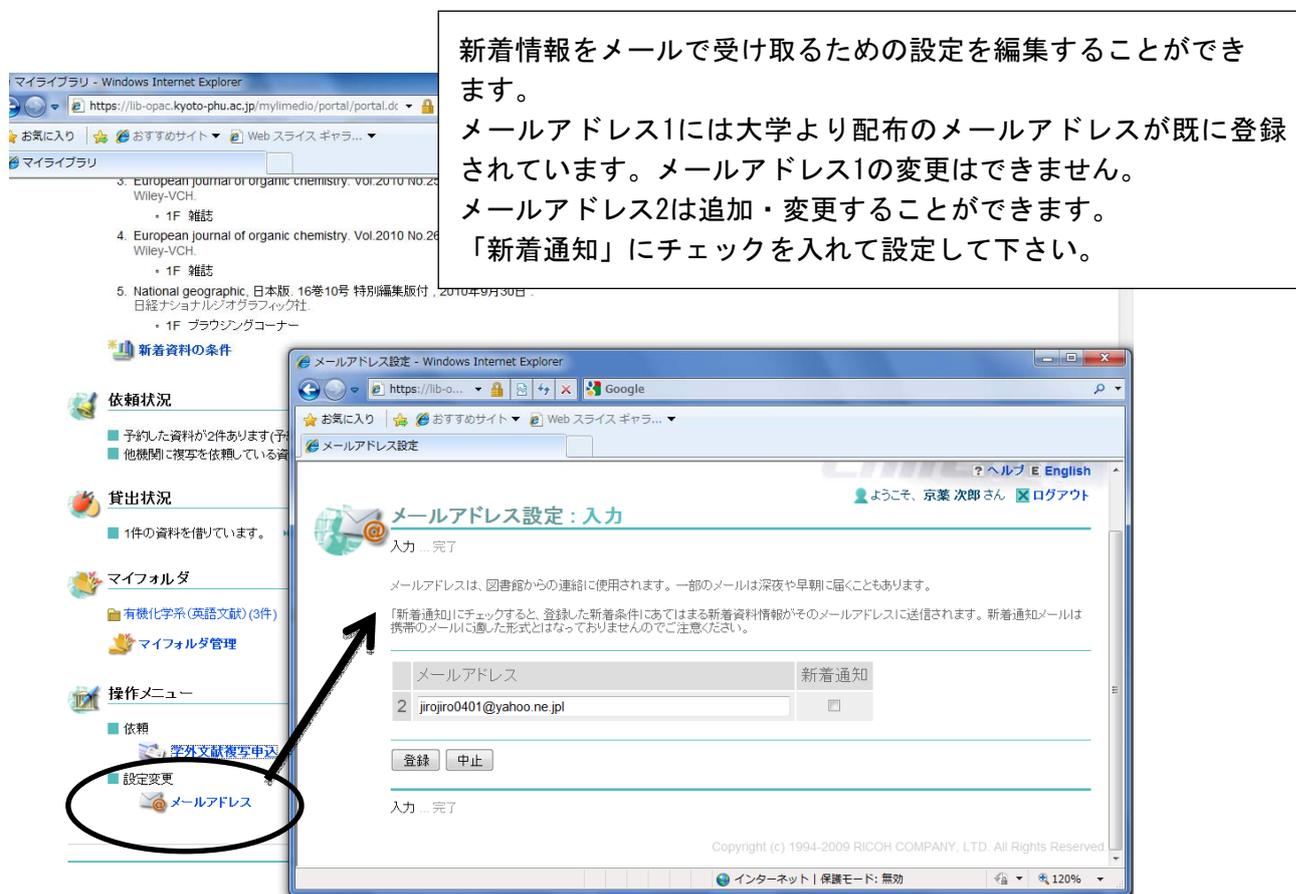
補足

「所蔵」には、その資料を持っている大学の件数が表示されています。「Webcat Plus」をクリックすると、その一覧が表示されます。どの大学に複写を依頼するかは図書館で決定します。図書館から発行される紹介状を持って、直接他大学に行くことも可能です。そのときは、必ず図書館カウンターでご相談下さい。



誌名、出版社、ISSN等が自動的に入力されるので大変便利です。必須項目と論文詳細を入力したら、「確認に進む」をクリックし、「この内容で依頼」して下さい。

④メールアドレス（設定変更）



新着情報をメールで受け取るための設定を編集することができます。メールアドレス1には大学より配布のメールアドレスが既に登録されています。メールアドレス1の変更はできません。メールアドレス2は追加・変更することができます。「新着通知」にチェックを入れて設定して下さい。

本学所蔵資料検索結果の見方

図書の検索結果

検索結果詳細：図書
検索条件入力 > 検索結果一覧 > 検索結果詳細

1/1件

薬学領域の分析化学
ヤクガクリョウイキノブンセキカガク
財津潔, 鶴田泰人編集; 明樂一己 [ほか執筆]
東京: 廣川書店, 2009.4

ブックマーク

所蔵:

巻号	予約人数	刷年	所在	請求記号	貸出区分	資料ID	状況	備考
1	0		2F 学習図書	433 Z.1	貸出可	126800H		

ここをメモする！
「所在」と「請求記号」
本は各所在ごとに、請求記号の数字順、アルファベットの順に並んでいます。
これらの情報を基に本を探して下さい。

注意して下さい！

- ・所在が「分野」の資料は図書館に所蔵していませんので、貸出ができません。
- ・貸出区分が「禁帯出」のときは貸出できません。
- ・新書と文庫の場合は請求記号がありません。
- ・岩波新書、ブルーバックスはシリーズ番号順に並んでいるので、No.をメモして探して下さい。それ以外の新書と文庫は著者名順に並んでいます。

グリーン資本主義：グローバル「危機」克服の条件
グリーンシホノシュギ：グローバルキキコクフクノジョウケン
佐和隆光著
東京：岩波書店，2009.12

ブックマーク

所蔵:

巻号	予約人数	刷年	所在	請求記号	貸出区分	資料ID	状況	備考
1	0		2F 新書・文庫		貸出可	603014J		

巻号ブックマーク

- ・刊年 : 2009
- ・形態 : iii, 198, 2p: 挿図; 18cm
- ・別書名 : グリーン資本主義：グローバル危機克服の条件
- ・シリーズ名 : 岩波新書; 新赤版 1221

岩波新書のNo.1221

雑誌の検索結果

関連資料詳細：雑誌
検索条件入力 > 検索結果一覧 > 検索結果詳細 > 関連資料一覧 > 関連資料詳細

1/1件

Chemical communications : chem comm
the Royal Society of Chemistry
Cambridge : Royal Society of Chemistry, c1996-

ブックマーク 複写を依頼 新着を通知

雑誌の所蔵:

所蔵巻号	所在	所蔵年	受入継続	備考
1 46(29-38)+	1F 雑誌	2010-2010	継続中	
2 1996-2009, 2010(1-28)+	B1F 洋雑誌	1996-2010	継続中	

雑誌の巻号:

バックナンバーを見る

Vol.46 No.38 14 Oct. 2010 [最新号]

所在	資料ID	受入日	製本状態	状況	予約人数
1 1F 雑誌	951043F	2010/10/21			

バックナンバーを見る

巻号ブックマーク

- ・創刊・終刊 : 1996, no. 1 (7 Jan. 1996)-
- ・形態 : v. : ill. ; 30 cm
- ・別誌名 : Chem comm
Chem. commun.
- ・注記 : Title from cover
- ・継続前誌名 : [Journal of the Chemical Society, Chemical communications](#)
- ・出版国 : イギリス

ここを見る！
「所在」と「所蔵巻号」
234(7-13) = 234巻7号～13号を所蔵している事を意味します。これらの情報を基に雑誌を探して下さい。

補足

- ・継続前誌名や継続後誌名をクリックすると、それぞれのタイトルでの検索結果が表示されます。
- ・最新号は受入日より2週間後貸出が可能になります。

開館日程

2011年 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2011年 2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2011年 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

25, 26, 28-31日：蔵書点検のため休館

休館
 9:00-20:00
 9:00-17:00
 10:00-17:00
 休館=館内整備

2010年度後期試験日程

教務課

シラバスにも一部掲載されているように、2010年度後期の試験日程は別表のとおりです。

また、再試験受験手続について、例年手続きが遅れる学生が見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）よく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試験	試験期間	合格発表	受験手続日
4	後期試験	1月11日(火)～ 1月17日(月)	1月26日(水)17:00～ 1月31日(月)17:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月4日(金)～ 2月9日(水)	2月16日(水)17:00～ 2月21日(月)17:00 Webによる公開	1/27(木)・1/28(金)
	前・後期再試験Ⅱ	2月24日(木)～ 3月3日(木)	進級査定会[3/24(木)] まで発表しません。	2/17(木)・2/18(金)
	OSCE本試験	12月18日(土)・ 12月19日(日)	別途掲示して告知	—
	OSCE追・再試験	3月10日(木)	進級査定会[3/24(木)] まで発表しません	別途掲示して告知
	CBT本試験	1月24日(月)・ 1月25日(火)	別途掲示して告知	—
	CBT追・再試験	3月7日(月)	進級査定会[3/24(木)] まで発表しません	別途掲示して告知
1～3	後期試験	1月21日(金)～ 1月31日(月)	2月14日(月)17:00～ 2月21日(月)17:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月24日(木)～ 3月3日(木)	進級査定会[3/24(木)] まで発表しません	2/15(火)・2/16(水)

京都薬科大学第1回学生生活調査 調査結果概要について

2010年7月～9月に実施した第1回学生生活調査結果の概要について、次の通り報告いたします。学生の皆さんには、アンケート調査にご協力いただき有難うございました。

「学生生活調査」は、在学生の生活実態などについて、現状を正しく把握することにより、今後の学生生活支援などの諸施策を考えることを目的に実施いたしました。

経年的にデータを蓄積することで、学生の生活実態の変化を把握し、本学の学生生活支援などについて、積極的に改善・改革に取り組む予定であります。

1. アンケート調査の実施概要について

- (1) アンケート用紙は下記の通り、学生の皆さんに配布いたしました。
 - ・1～4年次生:2010年9月16日(木)～21日(火)
 - ・5年次生:7月中旬に各分野へ配付
- (2) 回収については、休み時間に行い、学内に回収箱も設置しました。

2. アンケート調査結果概要について

(1) 回答数・回答率について

- ・回答数については下表の通りとなりました。

全体	学年別					自宅・下宿別	
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	自宅	下宿
931	295	210	148	158	111	556	367

- ・回答率は55.7% (回答数931 / アンケート配付数1,669) でした。

(2) 総括

調査の結果、生活面では、勉強や読書の時間が非常に少ないという結果が見て取れました。一方で携帯電話やパソコンを媒体として、1日2時間以上インターネットに接続している学生も決して少なくはありません。また、50%近い学生が平均して午前1時以降に就寝しており、ライフスタイルは夜型の傾向にあります。

経済面では、自宅生に比べて下宿生の方が余裕を感じている割合が高く、家賃の平均額等の結果からも、経済的に余裕があるが故に下宿をしている学生も多いという傾向が窺えました。奨学金は、50%弱の学生が希望していますが、実際に受給している学生は30%強に留まっており、経済面での更なるサポートが必要と思われます。

悩みについては、勉学、自分の性格並びに能力、将来の進路等を理由に何らかの悩みを抱えており、悩みを抱えながら何もしなかった学生が25%以上存在していることがわかりました。一人でも多くの学生の悩みをいかに解消していくかが今後の課題として挙げられます。

今回の調査は第1回のため、過去からの学生生活の特徴の推移等は把握できませんが、次回以降は、調査結果の推移を検証し、大学の学生サポート施策の立案に活用する予定であります。

2011年度一般公募制推薦入学試験結果

2011年度一般公募制推薦入学試験が2010年11月20日(土)に実施され、11月30日(火)に合格発表が行なわれました。その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	80名	272名	80名



異文化体験—フライブルク大学「日本人学生のためのサマープログラム」を受講して—

開講以来13回目となるフライブルク大学国際局主催の「日本人のためのサマープログラム—ドイツ語とドイツ文化」が2010年8月2日から28日までの約1ヶ月間予定通り開催された。昨年発生した思いがけない出来事の後だけに希望者が集まるか心配されたが、ふたを開けてみるとなんと過去最多の34名もの学生諸君が参加した。心配は杞憂に終わりほっとしている。本学はフライブルク大学の提携大学ではないが、毎年20名以上の優秀な参加者を送り出す参加校として国際局の覚えもめでたく高い評価を得ている。このような実績からフライブルク大学の国際局では、京都薬科大学の参加者のための特別企画として、フライブルク大学の薬学部見学と市内の薬局を見学するプログラムを用意していただいている。昨年からは医学部付属病院での臨床現場の見学も追加され、本学からの受講者の多くが参加した。サポート体制も万全で、海外渡航体験のない参加者も安心して参加できる様々な心遣いが用意されている。

このサマープログラムに参加した2年次生の代表5名に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出をまとめてもらった。異文化に接して強烈なカルチャーショックに見舞われた受講生の素直な体験談を読んでいただきたい。これを読んで短期留学に興味を持った人は是非とも夏休みにチャレンジしてほしい。国際局や関係機関の努力により受講料+寮費で820ユーロ（2010年実績）と格安の料金設定となっている。教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが計画されている。また週末にはダイムラー・ベンツの博物館やフランス・スイスへの日帰りバス旅行（料金は受講料に込み）が予定されている。フライブルクのみならず、黒い森やライン河、スイスやフランスの美しい町や村が皆さんの参加を心待ちにしています。（注：ドイツでは18歳以上の飲酒は合法です）
（ドイツ語担当准教授・日本フライブルク・アルムニ会会員 桑形 広司）

ドイツ留学にDanke!!

2年次生 岸本 悠希

人生初の海外旅行は、2010年8月の1ヶ月間ドイツの語学と文化を体験できるサマープログラムとしてフライブルク大学に留学する事でした。

8月2日ドイツ着。寮の割り振りがありました。

8月4日簡単な問題のクラス分けテストがありました。1クラス15人くらいでA~Iクラスまであり、クラス毎にドイツ人の先生が付きます。

授業はほとんどがドイツ語で、リスニング・食べ物・名前・レストラン・スーパーでの会話など日常生活に困らないような内容を、遊びを交えた授業でとても楽しく学習しました。

午後からは毎日何らかのレクリエーションプログラム（フランスのコルマーやスイスのバーゼル行き、バーベキューパーティー、大学病院や薬局の見学、週末日帰り旅行ではベンツ博物館やラインの滝行きなど）があり、ワイン祭りに参加した時には地元インターネット新聞にとり上げられました。

またミュンヘン週末旅行では、おとぎ話に出てくるようなきれいなノイシュヴァンシュタイン城に行きました。有名なWeisswurst（白ソーセージ）やドイツビールも堪能しました。

その他時間がある限り、バスや電車で色々な所を散策したり、友達と料理を作ったりと忙しく過ごしていました。ドイツ人は親切で気さくに話しかけてくれるので、日本に帰る頃にはドイツ語や英語で会

話が出来るようになりました。

8月27日ドイツ生活最終日さよならパーティーがありました。各クラス出し物をし、私達はドイツ語で歌をうたいました。みんなとの別れはとても悲しく、ドイツを離れたくないと思いました。

この1ヶ月間のドイツ留学でドイツ文化やドイツ語など多くの事を学べ、私も少しは成長出来たのでとてもよかったと思います。ドイツ留学の機会を与えてくれた、ドイツのスタッフ・桑形先生・家族に感謝します。Danke!!



Tischer氏とビアホールにて（左から2人目が筆者）



ドイツ語講座終了!!（右側が筆者）

Liebes, liebes Deutschland!

2年次生 高石 彩香

今年の夏休みに、私はドイツの南西部にあるフライブルクという都市に1ヶ月の短期留学をしました。「海外で1ヶ月、暮らしてみたい!」という理由でこのプログラムに参加しました。ドイツでの私の生活は、平日の午前中は学校に行き、ドイツ語の授業を受け、午後からはフリーでした。平日の午後と土日は、レクリエーションに参加したり友達と街を散策したりしていました。

授業は、初めは嫌で嫌で仕方ありませんでした。先生は、ドイツ人の女性教師なのですが、なんとドイツ語しか話してくれないのです!日本でろくにドイツ語の勉強をしていなかった私は、先生が何を言っているのかさっぱり分からず授業についていけませんでしたが、それでも毎日授業に出て、そこで覚えた言葉を、その日の午後にチューターさんや店員さんに使っていたら、だんだんと話せるようになりました。話せるようになったら、ドイツ語が大好きになりました!

レクリエーションでは、ドイツ国内だけでなく、スイスやフランスにも行ってきました。ラインの滝を見たり、教会を見たり、自転車でSchwarzwald (黒い森) に行ったりしました。ドイツでは滝も建物も畑も、全てスケールが大きい!色んな景色を見て、いっぱい感動しました。また、レクリエーション中にはドイツ人チューターや他大学からのプログラム参加者と仲良くなりました。日本に帰って来てからも、メールをしたり会ったりしていて、色んな人に出会うことができました。



ドイツの街並

最後に、ビールについて書きたいと思います。私は、ビールが苦くて嫌いだったのですが、ドイツに来てからビールが飲めるようになりました(笑)ドイツのビールは、日本みたいに苦くなくすごく飲みやすいのです。フライブルク市内にある「ファイアリング」というビアガーデンのRadlerというビールが特に気に入りで、平日夕方から友達と集まっては毎日のように飲みに行っていました。来年ドイツに

行かれる方はビールが飲めない人でも是非、ファイアリングに行ってRadlerを飲んでみて下さい。きっとハマります!

なんとなく参加したこのプログラムですが、日本に居ては体験できないことを経験することができてよかったです。このプログラムを紹介してくれた桑形先生を始め、ドイツでドイツ語を教えてくれたCarola Grasse、プログラム事務局の人々、チューターの皆さん、ドイツで出会った人たち全てに感謝しています。また必ずドイツに行きたいです!!



「Klasse B!」 (最後列の右端が筆者)

滞在先: Freiburg in Deutschland
(ドイツ・フライブルク)

2年次生 阿部 誠也

2010年8月

あの1ヶ月は、本当に楽しかった。すごく濃い1ヶ月だった。日本にいる今となつては、あの1ヶ月があまりにも楽しすぎて、まるで夢のような、現実とは思えないような日々だった。

フライブルク、そこはたたく石畳の上をトラム(路面電車)が行き交う学生の街です。

街並みはとにかく情緒あふれていて、まるで、どこに行ってもディズニーシーにいるような気分でした。



フライブルクの街並み

街のいたるところにカフェがあり、ドイツ人がお昼でも仕事中でもとにかくビールを飲んでいます。アイス屋さんもたくさんあって、1個80セントという日本ではありえない値段でおいしいスイーツが食べられます。種類も豊富でバナナやクルミ、ココナッツ、ピスタチオなど日本ではなかなか食べられない

種類のアイスがたくさんあります。見た目がスパゲッティの贅沢なアイス、スパゲッティアイスも暑い日にはおすすめです。

平日は、午前中は授業で午後からは自由時間。国境を越えてフランスのストラスブールに行ったり、スイスのバーゼルに行ったり、ヨーロッパパーク (Europa-Park) という絶叫系アトラクションが豊富なディズニーランドのようなテーマパークに行ったりと、とにかく毎日がリアルに充実していました。

土曜はあらかじめ用意されているプログラムに参加してちょっと遠出してみたり、週末の2泊3日でミュンヘンやノイシュヴァンシュタイン城に行ったりしました。

郷に入っては郷に従えということで、1日にビール500ml (瓶一本分) という生活を毎日続けていました (笑)。500ml×6本のビールが2ユーロなので日本では考えられない安さ!!それに、日本に比べてビールがとてもおいしいので苦手な人でも案外飲みます。それから、バーベキューをやったり、学生バーに行って一杯たった1ユーロのカクテルを飲んだり、夜中に寮の外を歩いて、野生のハリネズミやウサギに遭遇してみたりと、とにかく毎日が幸せでした。

この1ヶ月ほど充実した1ヶ月は今までになく、想像を絶するほどの楽しさでした。ドイツでできた友達もたくさんいて、今でもよく会うほど仲が良いです。

最後に、あの最高の1ヶ月はたった1000字程度じゃ語りきれません。是非、みなさんのその目で素晴らしい日々を実感してきてください。行って後悔は絶対にしません!!学生の今にしかできないことを是非!! Vielen Dank!!



最後のお別れパーティにて
(中列左から二人目が筆者)

ドイツ留学のすすめ

2年次生 杜氏 裕美子

私が初めてドイツ語と出会ったのは、大抵の京葉生のみなさんと同じように、1年次生のドイツ語の講義です。もともと、語学にはあまり興味がなかったのですが、講義で紹介されたドイツ留学の話も、ほとんど聞き流していました。しかし、ドイツ語を学ん

でいくうちに、すっかりはまりました。気づけばNHKの「まいにちドイツ語」というラジオ講座まで聴いていたぐらいです。また、ヨーロッパに一回は行きたいと思っていたので、友達2人を巻き込んで応募しました。

乗り物酔いの気のある私には、フライブルクへの旅路は大変です。11時間の飛行と、バス移動は私をホームシックにし、友達を困らせました。しかし、これから一ヶ月を過ごすフライブルクという町は、予想をはるかに上回るほどワクワクする土地でした。

なんといっても、一日一日が濃い!山の上で飲むドイツビール、でかくて食べきれなかったケバブ、通学の要・路面電車、電柱のない美しい町並み、大聖堂のきらきらしたステンドグラス、朝市の活気とブロートヴルスト、トラクターで巡るぶどう畑、晴れた青空の色、大らかでいて大雑把な寮生の方々が作ってくれたサラダ、友達と計画したアルプスとハイジの小屋見学・・・書き出せば止まらないぐらい、新しいことだらけで充実した日々でした。疲れすぎて毎日夜10時から爆睡していたのも初めてです。

うれしかったことは?と問われるとたくさんあって悩みますが、あえて2つ挙げます。1つ目はケルン先生と出会ったことです。フライブルク大学の先生の紹介で、その愛嬌ある顔立ちの先生を壇上に見たとき、驚きを通り過ぎて感動しました。ケルン先生は留学前に聴いていた例のラジオ講座の先生のうちの一人です。とてもわかりやすく、耳に残る語り口調で、よりドイツ語好きに拍車をかけたキーパーソンです。話してみると、やっぱり愛嬌のある先生でした。2つ目は道が聞けたことです。道に思いっきり迷ったのは久しぶりで、自分が迷子だと気づいたときには、地図上のフライブルク区域の黒い枠線の外にいました。慌ててきよろきよろしていると、とても上品で感じのいいおばさまが「どこに行きたいの?」と声をかけてくださいました。必死で「市庁舎はどこですか?」とドイツ語で返すと、無事通じて、道をまっすぐ行くだけで戻れることがわかりました。うれし恥ずかしでした。

この夏のたくさんの経験が自分の力になるはずですよ。



ある雨の日の風景



ミュンヘンのレストランにて（左側が筆者）



朝市の花屋

Sommer in Freiburg

2年次生 住本 菜摘

私は今年の8月、ドイツのフライブルクに行きました。ドイツの空港に到着したのは朝でしたが、8月初頭にも関わらず少し寒いと感じるくらいでした。行く前から日本のような夏ではないと聞いていたものの、実際に体験してみると少し不思議な感じがしました。でも、私は暑いのが苦手なので、一番暑い8月を涼しい場所で過ごせると思うと少しうれしく思いました。

その日の夜、フライブルクの学生寮に到着しました。寮の近くにはスーパーもあり、とても便利に買い物することができました。そのスーパーに置いてあるものも安くて驚きました。ドイツと比べると日本のものはすべて値段が高いと思いました。



大学構内

次の日から学校が始まりました。フライブルク大学を見て、まず印象的だったのが大学の周りに門や壁がひとつもなかったことと、校内の床などが大理石できていたことでした。壁が全くないので、すぐに学校だとは思わなかったし、いつの間にか学校の敷地に入っている感じでした。私はこの学校の造りに感動し、すぐに好きになりました。

平日の午前中は毎日ドイツ語の授業がありまし

た。午前中は毎日ドイツ語の授業、授業が終わっても町に出ると周りはすべてドイツ語です。今考えると周囲がすべてドイツ語にまみれていました。そのため、帰る頃にはずいぶんドイツ語がわかるようになっていました。特に、最初はまったく聞き取れなかった数字も、聞けば数字がすぐに浮かんでくるようになっていたのは自分でも驚きでした。やっぱり現地で語学を勉強することは、上達の手がかりが全然違うと改めて実感しました。



ノイシュバンシュタイン城

平日の午後もレクリエーションなど、たくさんの行事があり、とても有意義に過ごすことができたと思います。また、土日には日帰り旅行や2泊3日のミュンヘン旅行にも行きました。ミュンヘンではあの有名なノイシュバンシュタイン城も見ることができました。中に入ることもでき、その内装は感動的なものでした。

そして、ドイツにいられるのも残り一週間ほどになったとき、帰るのがとても悲しくなってきました。それから友達と一緒に毎日飲みに行きました。日本にいた頃はビールは飲むことができませんでした。ドイツでビールのレモネード割を最初に飲んでから、ある程度ビールが飲めるようになりました。種類にもよりますが日本のビールに比べてほとんど苦くなかったので私にも飲むことができました。



Radler

大盛りポテト

そして、いよいよ帰る日になりました。飛行機は乗換時間を合わせると、24時間くらいかかりました。日本に着くころには長時間のフライトと時差で、へとへとでしたが、そんなことよりもすでにフライブルクが懐かしく切なくなっていました。この年の夏はとても良い経験ができました。もし、機会があれば是非また、ドイツに行きたいです。

10月のオープンキャンパス開催

入試課

10月31日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

前日の台風の影響が懸念されましたが、前年を上回る254名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。

半日のスケジュールで、躬行館のT31講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、3年次生の米澤研二さんに大学生活やクラブ活動等についてお話をいただきました。「卒業生の話」では、マルゼン薬局に勤務されている薬局長中村雅洋先生をお招きして、本学の魅力や本学に在籍することのメリットなどをわかりやすくお話いただきました。参加者からは、「生の声が聴けてよかった」、「ためになった」などの感想が寄せられ、「在学生の話」、「卒業生の話」とともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、愛学館および躬行館の分野（研究室）、Q35実習室の見学を行い、約200名の方にご参加いただきました。参加者からは、「施設が充実していてきれいだった」、「見学して受験意欲が高まった」などの感

想をいただきました。

今回は、躬行館食堂で「相談会」を実施しました。広く明るい会場は、相談しやすい雰囲気前で前年を上回る80名の相談者がありました。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、高校生、付添者とともにとても熱心な姿が印象的でした。

今後ともオープンキャンパスをより一層充実していきたいと思っておりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



「学長挨拶」の様子



「施設見学」の様子

「卒業生からのメッセージ」

出会いを大切に、“自分磨き”をしてください



飯居 宏美

病態生化学分野

2003年 学部卒業

2008年 博士課程修了

京都薬科大学

病態科学系

臨床腫瘍学分野 助教

私は、秋葉聡教授の御指導のもと、2008年に本学病態生化学分野の研究で博士号を頂き、アメリカのシアトルにあるUniversity of Washingtonの化学・生化学分野、Gelb研究室でポストドクターとして1年半を過ごしました。そして現在は、本学病態科学系臨床腫瘍学分野の吉貴達寛教授の研究室で助教を勤めております。（30歳、女性、独身です。）これまで多くの方との出会い、そのおかげで今の職に就けたことを感謝しております。

今回、後輩の皆さんにメッセージをということで、ここでは私なりに今までなんとか道を切り拓いてくることができた秘訣を書くことにします。まず、1つ目。とにかくやらなければいけないことを一

生懸命やりましょう。2つ目。それに対して努力しましょう。3つ目。出会った人を大切にしましょう。

私自身、要領が悪いし、人一倍失敗もします。やる気だけでは道は拓けないし、努力をしない人にチャンスは来ないということを身にしみて感じ、うまくいかないことも経験してきました。運がいいかといわれれば、そうですね、繰り返しになりますが周りの人に恵まれています。私自身の實力よりも周りの人の助けのおかげで今の私があります。

私がモットーにしていることは、決してあきらめないことです。99.9%ダメだろうと思うことでも、自分自身がやりたいことや正しいと思うことなら、とにかく口に出して行動する。計画を練り、誰に助言を求めるのが良いか考える。一人ではできなくても協力者がいればたいいのことはできるのです。だから、この研究という仕事は一面、人と接することが重要となる仕事だと思っています。異なる分野の研究者、企業の方、臨床のプロなど、人と仕事をすることが研究には必須です。英語で話せることも大事なことです。母校の教員としては、特に全学生の70%の女子学生の皆さんに、多くの人と接するためにも、もっと自分を磨いて将来社会に貢献する人材になって世界に羽ばたいて欲しいと願っています。そして少しでもそのお手伝いができれば幸せだと思っています。

1. はじめに

本学が大学コンソーシアム京都加盟18大学と推進している連携事業におけるFD研修プログラムの一環で、海外のFD先進事例に対する知識を深め、連携大学のFD活動に生かすことを目的として今回、米国ボストン地域の大学コンソーシアム College of the Fenway (COF) 加盟校を訪問し、COFにおける調査を行うとともに独自の取り組みについてもヒアリングを行いました。紙面の都合上初年次教育とアカデミックサポートに焦点を当てて報告します。

視察のメンバーは、京都外国語大学から教員1名、京都橘大学から教員1名、龍谷大学から教員2名、京都薬科大学から1名、京都学園大学から職員1名、京都FD開発推進センターからスタッフ2名の計8名でした。

<視察スケジュール>

9月 7日 (火) Colleges of the Fenway

9月 8日 (水) Simmons College, Emmanuel College

9月 9日 (木) Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences

9月10日 (金) Wheelock College



筆者 後列左から2人目

2. College of the Fenway (COF) の概要

COFは、フェンウェイパークに程近いメディカル地区にある以下の6つの大学から構成されています。

- Emmanuel College
- Massachusetts College of Art and Design (Mass. Arts)
- Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS)
- Simmons College
- Wentworth Institute of Technology
- Wheelock College

これらの大学は、いずれも小規模ですが充実した教育プログラムによって多くの優秀な卒業生を輩出しています。COF 加盟大学の学部生を合わせると12,000名、大学院生6,500名、専任教員総数700名であり、毎学期約400名の学生が相互履修(単位互換)をしています。主な共同事業は、相互履修の他、FDワークショップ、共同ネットワークシステム、図書館相互利用、共通カードや研究センターの設置などです。COFの主な活動として、Teaching and Learning Collaborative (TLC) が挙げられます。TLCはCOFに属する個々の大学のFDを支援するとともに、新しく効果的かつ革新的なFDを展開する機会を設けています。TLCの目的は主に次の4つです。

- 1) 教員どうしがそれぞれの教育経験を共有することにより、教育能力を高める
- 2) 大学間の相互評価により、それぞれの大学教育プログラムをよりよいものにしていく
- 3) 大学内および大学間のネットワーク支援を促進する
- 4) 学術研究やプログラムにおける連携を増やすTLCの最初の活動として Summer Teaching Instituteが2010年6月に開催されました。4つのセッションで教育戦略についての議論がなされ、今後の活動として次の3つのスレッドが強調されました。
 - a) 大学連携によるFD研究
 - b) プロジェクト活動
 - c) 連携によるFD実践

この取り組みの成果として、教育経験が豊富な教員から新任教員にいたるまで、教育経験に差のある教員どうしが、お互いに学び合う姿勢がみられました。

3. COF 加盟大学における初年次教育

初年次教育に重点を置いている背景として、大学の1年生は、文章作成能力や文章読解力といった基本的能力が不足していることがあります。これは日本に限ったことではなくアメリカの大学においても顕著にみられるのは少々驚きでした。そこで、1年生を対象として、基本的能力を身に付けることはもちろんのこと、学習に対するモチベーションを高めることを目的として、各大学で様々な取り組みが行われています。

1) Emmanuel College

1年生は、春か秋に First year seminar を履修する。セミナーのテーマは「知識、価値観、社会変化」。セミナーの目的は、1年生に調査、文章作成、

ディスカッションに興味を持ち、挑戦するよう促すことにある。教員のモチベーションに差があるという問題は、日本の大学のみならず Emmanuel College にも存在している。結局、モチベーションの高い教員が初年次教育を担当することで対処している。

2) Simmons College

最近、カリキュラムが改訂され、初年次教育は First Year Experience と Writing から成る。前者は専門分野に関するものだが、複合的でかなり広範囲な内容を扱っており、学習法も教える。後者の授業では、その専門家が教えている。両方の授業には計5名の教育者が関わっている。授業は少人数制であり、教員と学生との信頼関係を築くことに重点を置いている。懸案となっている初年次教育の担当教員の確保については、次の3つの方策をとっている。

- (a) 初年次教育を担当する教員は、他の担当授業数を減らすなどして負担を軽減する。
- (b) First Year Experience では教員の専門分野を内容に含める。
- (c) 初年次教育をテニユアトラックに含める。

3) MCPHS

原則として、一般教養を担当している教員は、初年次教育も担当するという取り決めがある。しかし、Learning Skills のような学習方法を教える科目の担当を希望する教員はほとんどいない。FD 自体を研究対象とする考え方を持っている教員は非常に限られている。

4) Wheelock College

初年次教育として、セミナーを開講している。テーマは教員の研究分野を反映しているのも、非常に多様である。学生は自分の興味に応じてセミナーを選択できる。セミナーの内容は教員によって異なるが、書く力を付けさせるという目的では一致している。

4. COF 加盟大学における Academic Support

COF加盟の6校において図に示すようなサポートが行われています。

- Developmental Education: 入学試験の段階で、学力が不足している科目の補習コースを受けるが、単位は無い。
- Pre-collegiate Academic Preparation Programs: 入学前の夏休みに夏期講習を受ける。GPA (Grade point Average) の点数やSAT (Scholastic Assessment Test) の点数が低い学生および高校での学力が低い学生などが対象となる。



- Academic Support Center: 学習のための素材や資源の提供およびプロのサポートスタッフもしくは教員の紹介。
- Peer Tutor Programs: 成績のよい学生を雇用し他の学生に教える。Peer Tutor の学生は教員によってノミネートされ、オフィスでトレーニングを受けて雇用される（給料をもらう）。このシステムにより多くの学生に長時間のサービスを提供できる。
- Skill Labs: 学科ごとに設定している。
- Professional Academic Support Specialists: 多くの大学ではサポートの専門家を雇用している。



MCPHS の模擬薬局

5. おわりに

日本の大学が抱えている諸問題はアメリカでも共通であることが分かりました。COF では、学生に対する学習支援、新任教員に対する教育支援など様々な対策を講じています。今回の視察で学んだことを今後の教育に活かしたいと考えています。

教育後援会からのお知らせ

2010年度の教育後援会定例総会が10月1日（金）13時30分よりT31講義室に於いて開催されました。

宮秋会長から「学生の為、大学の為にどうしたらよいか、前向きな活発な意見を出してほしい」との挨拶があり、田村理事長、乾学長からはパワーポイントを用いて大学の近況についての説明が行われました。

その後議事に移り、2009年度の決算報告に続き2010年度事業計画ならびに予算（2010年10月1日～2011年9月30日）が下記のとおり承認されました。

議事後、2009年度教育賞（学生の教育に多大な貢献をした教員に贈られる）の表彰式が行われ、受賞者である吉川 豊講師（代謝分析学分野）に、宮秋会長から表彰状ならびに副賞が贈られました。

受賞後、吉川講師より「私が考えている講義のあり方」についてミニ講義が行われました。

その後、進路支援部長の山本教授から「学生への進路支援」について説明が行われ、最後に北出副会長より閉会の挨拶があり終了しました。その後、希望者には本年2月に完成した躬行館を見学していただきました。

（単位：円）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,800,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金（学生自治会の意見を聴取、要望に対して柔軟に補助）
	150,000	弔慰金（学生及びそのご父母に対して支給）
	1,500,000	学部生英語受講料補助（学部生を対象に、学内で開講する英語課外講座の受講料の一部、1人当たり15千円を限度に補助）
	200,000	一般図書の寄贈（専門図書を除く）
	5,000,000	「学生のいこいの場所」整備事業
小 計	9,850,000	
父母対象事業	300,000	会合費・事務費・郵送料
	1,450,000	K P U NEWS 送送料
小 計	1,750,000	
教育研究支援事業	1,480,000	C B T 模擬試験料（2010年度4年次生に対する継続事業）
	2,000,000	「治療薬マニュアル」 2011年度の4年次生用 参考書代
小計	3,480,000	
予備費	350,000	
支出合計	15,430,000	

受賞・掲載

教育賞受賞のご挨拶



分析薬科学系
代謝分析学分野
講師 吉川 豊

この度は、京都薬科大学2009年度教育後援会教育賞を頂きました。関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

私が大学時代に受けていた講義を思い出すとき、いつも頭の中に出てくるフレーズがあります。「どうして大学の先生は簡単な事をこうも難しくしゃべるのだろうか?」。この頭の中で消える事の無い疑問を払拭したいという思いをもって、私は毎回講義を行っています。「できる限り分かりやすく、できる限り簡単に」そして「今勉強している事が、将来のどのような場面で活かされるのか?」という事を少しでも学生諸君の心の中にとどめてもらえるようにいつも頭を悩ませています。

私の講義の方針として、「板書主義」というものがあります。近年VTRやパワーポイントなどのソフトが普及し、また、簡単に誰しもが利用できるようになってきました。そのため、「インパクトのある講演や発表ができるようになった反面、分かったような気にはさせられるが、本質的な事が何も伝わっていない事が多い」、「後から思い出そうとしてもほとんど思い出せない」という現実も、我々教員に突きつけられています。特に講義というものは丁々発止のやり取りを学生諸君と展開する場であり、本学のように1つの講義に出席する人数が200人近い場合でも、そのやり取りは同じであると考えています。板書をしながら、そして学生諸君の息吹を感じながら、熱意をもって講義を行う事が、私にとっての生きがいであり、やる気の源になっているといっても過言ではありません。もちろん、VTRやパワーポイントなどの最新のシステムは、使い方によっては、抜群の教育効果を発揮する場合がありますので、一つのことに凝り固まることなく、上手く色々な手法を取り入れ、学生諸君に満足感を与えられる講義を行っていきたいと思っております。幸い、学生諸君からの授業評価（授業アンケート）でも、板書の授業が非常に分かりやすいというコメントを数多く頂いておりますので、今後もこの賞に恥じない教育活動を進めていきたい所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。

第74回大阪透析研究会
優秀論文賞受賞

題名「抗結核薬投与により腎排泄型薬物であるピルジカイニドの血中濃度が低下した透析患者の一例」

演者 ○吉田拓弥、古久保拓、松永千春、根来早紀子、前原智恵子、和泉智、山川智之、加藤禎一、辻本雅之、西口工司

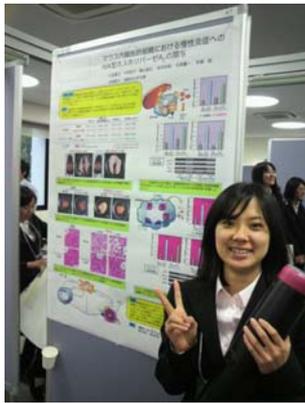
2010年9月5日に第74回大阪透析研究会が大阪国際会議場にて開催されました。仁真会白鷺病院と本学臨床薬学分野の共同研究により、上記タイトルで口述発表及び論文発表した本学臨床薬学分野の大学院修士課程2年次生 吉田拓弥君の研究内容が、優秀論文賞を受賞しました。透析患者においても、腎排泄型薬物が相互作用することを明確に示した点が、今後の透析医療に貢献すると評価されました。



表彰式の様子

第60回日本薬学会近畿支部大会
ポスター賞受賞

2010年10月30日に開催された第60回日本薬学会近畿支部総会・大会において、6年制学部生の積極的な学会への参加を促す試みとして、新たにポスター発表の機会が設けられました。その発表において、研究内容やポスターの出来映えのみならず、質疑応答を評価項目としたポスター賞が設定され、今回5年次生の三田景子さん（病態生化学分野）と山田裕美さん（微生物・感染制御学分野）が受賞しました。受賞した発表題目は、三田さんが「内臓脂肪組織における慢性炎症へのIVA型ホスホリパーゼA₂の関与」で、山田さんが「*Staphylococcus aureus*の産生する *Pseudomonas aeruginosa* Quorum sensing 阻害物質の探索」です。



三田景子さん



山田裕美さん

アルツハイマー病治療薬ガランタミン の新規治療メカニズムを発見

病態生理学分野のアルツハイマー病研究班の学部生・大学院生、高田助教、北村准教授、谷口教授、ならびに札幌医科大学神経内科学講座の下濱 俊教授らの研究グループにより、アルツハイマー病治療薬（ガランタミン）の新たな治療メカニズムが解明され、その研究成果が2010年11月17日の薬事日報で紹介されました。

ガランタミンにはこれまでに(1)アセチルコリン(Ach)エステラーゼを阻害し脳内のACh濃度を高める、(2)神経細胞のニコチン受容体を増強してAChの感受性を高めるほか、(3)神経細胞を保護するという作用があることが分かっていました。さらに今回の研究では、(4)ガランタミンがミクログリアに発現するニコチン受容体に作用し、ミクログリアが有する(アルツハイマー病の原因物質と考えられている)アミロイドβの除去機能を促進することが分かりました。また、この結果は、ミクログリアに発現するニコチン受容体が、新たなアルツハイマー病治療薬の標的となり得る可能性を示した意味からも、注目されます。

現在、ガランタミンは海外では、アルツハイマー型認知症に対する標準的治療薬の一つとして位置づけられ、欧米を含めた70カ国以上で発売されています。日本ではまだ臨床での使用は認められていませんが、今年2月にヤンセンファーマが製造販売承認

を申請しており、承認取得後は、ヤンセンファーマと武田薬品の両社が同一販売名で共同販売を実施する予定です。

今回、薬事日報により報道された内容は、卒業生を含め、一生懸命実験に励んだ多くの学生と教員が丸となって研究に取り組んだ結果、得られた成果です。病態生理学分野では、ガランタミンの日本での臨床応用の承認を皆で心待ちにしています。

ガランタミンの新たな作用機序を発見

ミクログリアによるAβ除去を促進

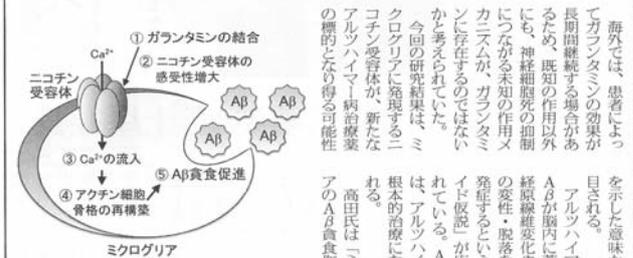
京都薬大、札幌医大の研究グループ

京都薬科大学病態生理学分野、札幌医科大学神経内科学講座ほかの研究グループは、海外に広がるアルツハイマー病の標準的治療薬の一つ、ガランタミンの新たな作用メカニズムを世界で初めて発見した。ガランタミンが、脳内のミクログリアに発現するニコチン受容体の増強を介して、ミクログリアによるアミロイドβ(Aβ)の貪食作用を促進することが分かった。Aβはアルツハイマー病の原因とされており、その除去に向けたメカニズムが分かっていたことで、アルツハイマー病の根治を目指す新たな治療薬の開発に役立つ可能性がある。なお、図1、2は高田氏からの提供。

アルツハイマー病根治療の開発標的にも

報告したのは、京都薬科大学病態生理学分野の高田和幸助教、北村准教授、谷口隆之教授、札幌医科大学神経内科学講座の下濱俊教授の研究グループ。研究グループは、ラットから調製したミクログリアにガランタミンを投

与すると、ミクログリアのAβ貪食機能が促進することを確かめた。さらに、脳内にAβが蓄積するよう遺伝子操作されたマウスに投与したガランタミンを2カ月間投与す



【図1】 ガランタミンによるミクログリアのAβ貪食促進メカニズム

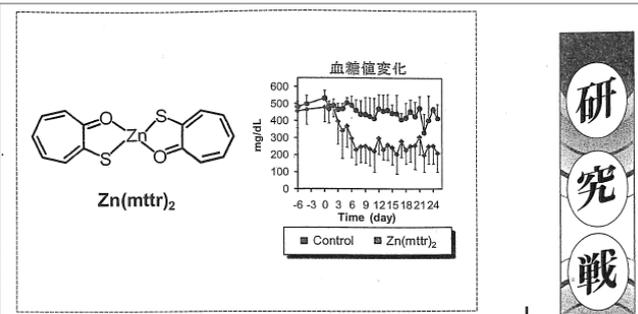


【図2】 脳内にAβが蓄積(シミ状の黒い斑点)するアルツハイマー病モデルマウスに、ガランタミンを2カ月間投与させた後の脳海馬部位の写真(右)。生理食塩水を同様に服用させたモデルマウス(左)に比べ、脳内のAβの蓄積が減少していた

る。海外では、患者にとってガランタミンの効果は長期継続する場合があります。また、認知症の発症初期にも、神経細胞死の抑制につながる未知の作用メカニズムが、ガランタミンに存在するのではないかと考えられていた。今回の研究結果は、ミクログリアに発現するニコチン受容体が、新たなアルツハイマー病治療薬の標的となり得る可能性を示した意味からも、注目を集めている。高田氏は「ミクログリアのAβ貪食作用を促進するメカニズムはこれまで不明であったが、今回の研究結果は、アルツハイマー病の根本的治療に新たな突破口を開いた」と語る。また、ガランタミンは海外でも標準的治療薬の一つとして位置づけられ、欧米を含めた70カ国以上で発売されている。日本では今年2月に、ヤンセンファーマが製造販売承認を申請し、承認取得後は、ヤンセンファーマと武田薬品の両社が同一販売名で共同販売する予定

代謝分析学分野の研究が 薬事日報に掲載される

代謝分析学分野、博士前期課程2年の邑上裕紀さんらが行っている研究が2010年9月22日号の薬事日報（研究戦略 YAKU学—研究現場から臨床へ—）で紹介されました。本研究は、亜鉛と有機物を結合させることが、亜鉛自身のもつ抗糖尿病効果を増強させることができ、次世代の糖尿病治療薬としての可能性を有することが、編集者の目にとまったものです。



研究戦略

YAKU学

研究現場から臨床へ

No. 9

ある種の亜鉛錯体は、強力な血糖降下作用を有することが見られ、新規経口血糖降下薬のシースとして注目集めていく。亜鉛錯体のような生体医薬品の開発においては、錯体の中心に位置する亜鉛イオンが活性中心に該当するものの、亜鉛イオンの周囲に配位している有機配位子の構造デザインが、薬効・体内動態・毒性などに大きく影響するため、重要なファクターとなっており、投与が可能で毒性が低い配位子の探索が、新規糖尿病治療薬の創製を担う。亜鉛錯体が糖代謝に深く関与し、血糖降下作用を有していることは知られていてきた。また、脂肪細胞を用いた実験的、細胞レベルでの亜鉛錯体の血糖降下作用は、インスリンシミュラータゲットの活性化を介して、おびぬけた探索とびっせ研究を行ってきた。以下に存在しており、鉄と次いで最も多い必須微量元素である。亜鉛

いことが明らかにされています。また、亜鉛は、細胞膜上へのグルコーストランスポーターの発現を促進し、管吸収率および血糖降下作用の向上を目的として、多数の亜鉛錯体を合成し、その抗糖尿病性を評価してきました。錯体化学において、亜鉛はソフトな酸であり、フッ素配位である錯体に対して、強配位性のテルマウスの亜鉛錯体を合成し、有意な血糖降下作用を示すことが考えられます。そこで、ZnS結合を持つ亜鉛錯体 Zn(mttr)₂ を合成し、その血糖降下作用を検討することにした。2型糖尿病モデルマウス、10 mg/kgの用量で連続して経口投与を行うところ、確実な血糖降下作用を示すことが確認された。Zn(mttr)₂ の投与は、有意な血糖降下作用を示すことが確認された。Zn(mttr)₂ の投与は、有意な血糖降下作用を示すことが確認された。Zn(mttr)₂ の投与は、有意な血糖降下作用を示すことが確認された。

出しました(図)。次に、血糖降下作用を有する亜鉛錯体の消化管吸収性、組織分布性および血中濃性を評価することにより、亜鉛錯体の体内動態と薬効との関連性について、65日間の解析を行いました。その結果、組織中鉛濃度は脂肪組織中においてのみ、亜鉛錯体投与によって増大することが確認された。また、亜鉛錯体は脂肪組織に比べて分布容積が減少していたことにより、亜鉛錯体の移行は消化管から脂肪組織へ移行していることが示唆されました。一方、経口投与での消化管吸収率は、亜鉛錯体の方が高かった。以上の結果より、亜鉛錯体は移行性が低下している。血中亜鉛濃度を高く保つことで、結果的に亜鉛錯体の組織中濃度が増加し、作用発現に至ったことが示唆された。

亜鉛錯体の配位子を適切な形に構造変換することで、亜鉛錯体の消化管吸収性が向上し、より低濃度での血糖降下作用発現が可能になりました。また、吸収されれば亜鉛錯体は脂肪組織に多く分布しており、インスリンの作用を介して、グルコースの取り込みを促進していることが示唆されました。以上の作用機序から、高い血糖降下作用を持つ亜鉛錯体は、「活性インスリン」として、次世代経口血糖降下薬としての可能性を秘めていると期待しています。

京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻代謝分析学分野
邑上裕紀

亜鉛の抗糖尿病効果を増強した 無機医薬品の開発を目指して

「京菓祭」を終えて 2010年度京菓祭実行委員長 大石 利一

今年の京菓祭は10月29、30、31日の3日間で行われました。

1週間前の天気予報から雨、しかも台風CHABAが接近しており、京菓祭が行われることさえも危ぶまれる状況で、最悪の事態も想定し、不安で一杯でした。しかし、「皆の学祭をしたい！」という熱い思いと偏西風の影響で、台風が大きくそれ、無事に京菓祭を開くことができました！

私は実行委員長という立場で、全体統括をし、京菓祭運営の中心となることで1、2年次の時にはない責任感を感じました。準備中には、友人と口論やいざこざがありました。しかし、「京菓祭を運営する」という1つの目標に向かって皆が協力し合い、議論を重ねた結果、満足のいく京菓祭ができました。

この時の辛くも楽しい経験は生涯消えることもないだろうし、再び実行の皆と集まったときにワイワイと過去の思い出話として話したいものです。

ここで、実行委員からのコメントもいくつか紹介します。

「実行委員会に入ってなければ絶対に出会えなかった、良い友達ができた！ 辻」

「毎日毎日しんどくて、正直明日にも辞めてやると何度も思ったけれど学祭当日、フィナーレ、仮打ちはそんなこと忘れてしまうほど楽しかったです！ 8時集合がない今はすごく寂しいです。シャレオツ」

「学祭でかなり痩せた笑 いいダイエットになった笑 松田衣代\(^o^)/」

「一人じゃないって思った。自分が何か思っているときは、同じこと感じている人がきつといて、こんな言ったらひかれちゃうかもって思っていたことも、意外とみんなわかってくれたりして、そういうことに気づいたとき、ちょっと自信が持てた。福田友紀」

「もっと学園祭やりたい。毎日だって続いて欲しいほどだ。引退なんて信じられない。と言うか信じたくない。角龍太郎」

この感想を聞いて、実行委員が自分たちの組織が大好きだとしみじみと感じました。私はこの素敵な組織に属し、そして実行委員長を務めたことを誇りに感じます。

京都薬科大学一般公開講座開催

私達、実行委員はたった3日間の京菓祭を運営するために、1年をかけて創り上げてきました。

しかし、私達だけではなく、サポートして下さった京菓会、学生課、施設課、清掃員の方々、学生部長、親、友達、先輩、後輩、近隣住民の皆さんなどご理解・ご協力があって、京菓祭を運営することができるのだな、と感じました。深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

2011年度の京菓祭のために、早くも実行委員が動き出しています！来年度も皆さんのご声援・ご協力をお願いします！



2010年11月6日（土）、今年3月に完成した新校舎「躬行館」のT31講義室において、第16回一般公開講座を開催いたしました。はじめに乾学長の挨拶があり、その後、「くすりと上手につきあうために」というテーマで、乾学長による講演が行われました。くすりを正しく使うために知っておくべきこと、おくすり手帳並びにかかりつけ薬局・薬剤師に関すること、健康食品等に関してスライドを用いてわかりやすい説明が行われ、約170名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

その後、場所を体育館に移し、健康科学分野、武田病院及びキリン堂のスタッフによる「健康度チェック」やOBによる「くすりの相談」、本学の中田教授による「健康相談」のコーナーが設けられました。今年は前年度比3割増の参加者数となり、健康度チェックではそれぞれのコーナーで順番待ちのところも多く出ていましたが、参加者は各コーナーを巡回しスタッフの熱心な説明に聞き入るなど大変好評でした。

毎年度リピータが多く見られ、健康に対する関心の広がりが見えました。また、本学での開催も13回目となり、「毎年、この公開講座を本当に楽しみにしている」「近隣住民との関わりを持つ機会をつくっていただくと有難い」といった感想が多く聞かれ、公開講座が恒例行事として地域に定着してきたことが感じられました。

アンケートの中には「来年も楽しみにしています」や「年1回といわず2回、3回と開催して欲しい」などが多く、地域に開かれた大学として地域に定着してきたことが感じられました。



乾学長の講演



健康測定の様子

クラブだより

バレーボール部

バレーボール部の活動内容と今後の活動予定です。

- ・男子【2010年度活動内容】
 - 4月 関西春季リーグ戦
 - 5月 OB戦及びOB会
 - 6月 六薬戦
 - 8月 関西薬学生連盟バレーボール大会
 - 9月 関西秋季リーグ
 - 11月 OB戦及びOB会
 - 12月 六薬戦
 - 2月 追いコン
 - 3月 東京薬科大学交流戦
- *2011年度もほぼ同じ予定です。
- ・女子【2010年度活動内容】
 - 春の六薬戦
 - 関西薬学生連盟バレーボール大会
 - 冬の六薬戦
- 【2011年度活動予定】
 - 6月 六薬戦
 - 8月 関西薬学生連盟バレーボール大会
 - 12月 六薬戦
 - 3月 合宿

卓球部

今後の大会予定

- 2010年 3月22日～25日 西日本医歯薬
- 6月 四薬
- 8月中旬 全薬
- 8月下旬 関薬

試合の活動結果

<全薬>

- ・女子
- 個人戦シングルス 3位 岸本

<関薬>

- ・男子
- 団体ベスト4
- ・女子
- 団体三位
- シングルス優勝 岸本
- ダブルス優勝 岸本 原川

サイクリング部

普段は平日の昼休み12:35～13:00に大学周辺を自転車ですべて走っています。月に2回ほど週末にはみんなで走りた場所を選んでランに出かけています。そして、サイクリング部一番の行事である北海道への夏合宿。引退するまでに北海道全土を回ります！おいしい食べ物屋や自転車で行けないうちへ行きま

す。学生の間にはしか出来ない貴重な体験が出来、とても充実しています！

ソフトテニス部

ソフトテニス部の昨年度の活動実績です。

- 4月 関西医歯薬ソフトテニス大会
悪天候により中止
 - 5月 四薬戦
男子：優勝 女子：2位
 - 8月 関西薬学生ソフトテニス大会
男子：優勝 女子：5位
 - 10月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ戦
男子：優勝 女子：優勝
- 今年度も同じ予定です。

マンドリン部

こんにちは！マンドリンクラブです。

私達は、年に1度開く秋の定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。今年でその演奏会も第82回目を迎え、多くのお客様が聴きにきてくださり、成功を収めることができました。

他には、マンドリン音楽をより多くの人に感じてもらえることを願い、入学式や卒業式、京薬祭などの学校行事でも演奏しています。

このような演奏会に向け、技術顧問の桑井謙三先生のご指導のもと、合宿や日々の部活動で、部員各々が楽器と真剣に向き合い、仲間との合奏を楽しんでいます。また合宿では、バーベキューや花火などをして皆で和気あいあいと交流を深めています。

春には、京都マンドリン連盟主催の合同演奏会に参加しています。これは、多くの京都の大学のマンドリンクラブが参加する大きな演奏会です。他大学のマンドリンクラブと合同練習を通して交流し、全日本マンドリン連盟京都ブロックとして活動しています。

今後も部活動を通し、大学時代にしかできない経験を積み重ねていきたいと思っています。



練習風景

映画研究部

映画研究部は週に1回部室で映画鑑賞をしています。

皆仲が良くとても雰囲気の良い部活です。

昨年の学祭では模擬店をしましたが、今年の学祭では映画上映会をしたいと思っています(^ω^)

映画が好きな方、興味ある方、ぜひぜひ部室に遊びに来てください。

お知らせ

第96回薬剤師国家試験

第96回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日 2011（平成23）年3月5日（土）
3月6日（日）
試験地 北海道 宮城県 東京都 石川県
愛知県 大阪府 広島県 徳島県
福岡県
試験科目 (1)基礎薬学 (2)医療薬学
(3)衛生薬学
(4)薬事関係法規及び薬事関係制度
合格発表 2011（平成23）年3月30日（水）
午後2時

2010年度動物慰霊祭

10月25日（月）午後2時から動物慰霊祭を、学内の慰霊碑前において執り行いました。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、慰霊碑前で読経をいただきました。

激しい雨が降っていたにもかかわらず、田村理事長、乾学長、奈邊動物研究センター長をはじめ職員、多数の学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめ、冥福を祈りました。

人事

昇任

2011. 1. 1付

医療薬科学系薬物動態学分野 講師 伊藤由佳子

採用

2011. 1. 1付

事務局会計課	主幹 安本 義仁
事務局施設課	主幹 富永 重夫
事務局施設課	主幹 宮崎 渡

退職

2010. 10. 31付

生命薬科学系衛生化学分野 助教 安田 江里

京薬会だより

<平成22年度卒業後教育講座B>

京薬会の卒業後教育講座Bは、卒業後教育講座A（4日間・12コマの講演形式講座）をビデオ編集してインターネット配信講座として、9月～11月の3ヶ月間に

開講し、全国のOB・OGが多数受講しました。尚、本学大学院生希望者には無料で受講していただきました。（詳細は、京薬会HP(<http://www.kpu-aa.com/>)をご参照ください)

<京薬祭とホームカミングデー>

本年度の京薬祭（10月29日～31日）の開催期間中に、初めての試みとして京薬会主催のホームカミングデーを10月30日（土）午後開催しました。卒業生の大学への里帰り、若き日の思い出を語り合い、新しい大学を見学し、懐かしい元教授の先生方（10名ご参加）や友人さらには若い現役学生との交流があり、多数の皆様のご来場・ご参加がありました。

<平成22年度一般公開講座>

11月6日（土）本学において開催された京都薬科大学・京薬会共催の一般公開講座では、乾賢一学長の講演「くすりと上手につきあうために」をはじめ、健康度チェック、くすりの相談、健康相談などに多数の参加者があり、盛会裡に大学と地域との交流が深められました。

<京薬会優秀クラブ表彰>

今年度のクラブ活動支援の一環として、優秀クラブ表彰が京薬祭オープンセレモニーの中で行われ、副賞（10万円）が各々授与されました。厳正なる審査で選ばれた剣道部、卓球部、男子バレーボール部の3クラブが京薬会会長から表彰されました。

<駅伝大会・ぜんざい会>

今年度の駅伝大会は、12月4日（土）に開催され、京薬会より20万円の協賛金が提供されました。また、例年のように学生生活動支援に寄与するため、自治会主催・京薬会協賛の「ぜんざい会」を当日午後2時より、愛学館食堂において、450人分のぜんざいと飲み物を用意し、好評を博しました。

<京薬会グッズ>

皆さんにご好評いただいている「京薬会グッズ」は、現在、ボールペン、キャリングケース、クリアホルダー、マウスパッド、ポストイット、マグカップ、ラッピングペーパー、スポーツタオルの8品目があります。本学の購買部（ポピー）で頒布しておりますので、是非一度手にとってご覧ください。

<京薬会事務室の移転>

京薬会事務室が「愛学館7階」より「育心館3階」に移転しました。移転先の京薬会事務室は、会議室を併設してスペースも広くなりましたので、是非とも、同窓会会員および学生の皆さんには気軽に来訪いただきますようお願い致します。

京都薬科大学奨学寄附金募集について

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2008年12月から募集を開始し、京薬会会員の皆様を中心に、教育後援会会員、企業、法人役員、評議員、職員等の方々からお寄せいただきました奨学寄附金は2010年11月30日現在、498件2,723万円に上っており、これを奨学基金に組入れ2010年4月から「授業料減免型奨学金」および「給付型奨学金」の新しい奨学金制度を導入いたしました。皆様からの多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

厳しい経済状況が続く中、今後も奨学金の需要が高まることが予想され、本学では、学生の修学支援を更に充実して参りたいと考えております。

つきましては、引き続き、皆様からのご寄附による資金的なご支援をお願い申し上げます。

ご寄附いただきました資金は、奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立て、有効に活用させていただきます。また、ご寄附をいただきました方々は、年度毎の寄附者名簿を作成し永久保存し、寄附者名を学内誌「KPUnews」に掲載させていただきます。高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧にも掲載させていただきます。

学生たちの修学支援のため、今後とも奨学寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

2011年1月

京都薬科大学 理事長 田村 正昭

京都薬科大学長 乾 賢一

【京都薬科大学寄附金募集要項】

- 1 目的 奨学金制度の充実
- 2 金額 一口 1万円（一口以上でお願いいたします）
- 3 寄附金の使途 奨学基金の積み増し
- 4 申し込み及び振り込み方法
下記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。
- 5 担当・お問い合わせ場所
京都薬科大学 庶務課
〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
TEL：(075) 595-4600（代表）、(075) 595-4608（庶務課直通）
- 6 減税措置
本学は、ご寄附を賜った方に対して税法上の特典を受けられる「特定公益増進法人」であることの証明を受けております。本学に対して、個人または法人が寄附を行った場合は、その個人・法人ともに税法上の優遇措置が与えられます。
 - 1) 個人の場合（寄附金控除）
寄附金が5千円を超える場合は、その超えた金額が当該年度の課税所得から控除されます。
【所得税寄附金控除の手続について】
大学発行の領収書と「特定公益増進法人証明書（写し）」を添えて、寄附した翌年の確定申告期間に所轄税務署に確定申告書を提出し、所得税の還付請求をしていただくことになります。
 - 2) 法人の場合（損金参入）
寄附金の額が、当該事業年度の損金に算入されます。一般寄附金の損金算入限度枠とは別枠で、同額までの金額を損金に算入できます。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力が難うございました。敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2010年に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等（卒業年次順）〉

久保 巖(昭14)	鎌田 潤子(昭32)	平原 靖子(昭36)	池阪喜代子(昭44)	中井 信江(昭55)
石黒 道彦(昭19)	木村賀代子(昭32)	吉光 博恵(昭36)	林 恵子(昭44)	中嶋 淳子(昭55)
島田 浚作(昭19)	小林 晋(昭32)	渥美 行弘(昭37)	稲垣 美幸(昭45)	東浦 純子(昭55)
長谷川匡仁(昭19)	佐野 光市(昭32)	西尾 英明(昭37)	辻 孝範(昭45)	平野 隆(昭55)
木野 雅男(昭20)	嶋田 博(昭32)	林 晴雄(昭37)	廣安 勉(昭45)	山國 尚志(昭55)
生田 量一(昭24)	清水 政信(昭32)	本岡美智子(昭37)	安藤 謙治(昭46)	山國 規子(昭55)
久保田桃三(昭24)	瀧野 雅子(昭32)	池崎 宗克(昭38)	木島 早苗(昭46)	山田 知子(昭55)
小財 勲(昭24)	田中 昌巳(昭32)	山下 慶子(昭38)	米満 弘夫(昭47)	匿名希望 (昭55)
佐山 福繁(昭24)	得丸 茂年(昭32)	吉富堅一郎(昭38)	今井久美子(昭48)	匿名希望 (昭55)
田代 益子(昭27)	豊田 義子(昭32)	浅井 俊義(昭39)	辻 美稚子(昭48)	神川 邦久(昭56)
岩城 宗吉(昭28)	内藤 裕義(昭32)	仮家 公夫(昭39)	二木 克己(昭48)	児玉智永子(昭56)
宇本 芳樹(昭28)	中野 淳子(昭32)	六車 昭美(昭39)	佐藤 嘉純(昭49)	竹田奈保美(昭56)
豊田 博文(昭28)	服部 健三(昭32)	加納 亜子(昭40)	安武 廣(昭49)	森田 祐子(昭56)
牧 敬文(昭28)	林 規子(昭32)	神田橋紘子(昭40)	中嶋 澄江(昭50)	吉村 聡子(昭56)
安藤 寛治(昭29)	平地美紗子(昭32)	野口 隆志(昭40)	永田あさ子(昭50)	有田 昌純(昭58)
後藤 和之(昭29)	広畑美代子(昭32)	野口 紘子(昭40)	猪奥 耕一(昭52)	市川 克己(昭59)
滝野 哲(昭29)	藤井 信夫(昭32)	久山 弥栄(昭40)	北尾 善信(昭52)	猪奥真理子(昭60)
三浦 一子(昭29)	森田 政子(昭32)	前田トシ子(昭40)	島 知子(昭52)	上荷 裕広(昭60)
山本 幸彦(昭30)	森脇 茂子(昭32)	斎藤 安正(昭41)	三上 正(昭52)	抱 隆史(昭61)
岡本 秀雄(昭31)	山本 穎(昭32)	杉浦 純子(昭41)	森 一二美(昭52)	山口 昌史(昭61)
千歳 嘉子(昭31)	山本 準子(昭32)	七海 朗(昭41)	服部 恵子(昭53)	福山由希子(昭62)
得居 怜子(昭31)	若松 道雄(昭32)	七海 禮子(昭41)	新井 理恵(昭55)	東 富雄(昭63)
山本 珠子(昭31)	渡部 一榮(昭32)	藤田 成孝(昭41)	宇野 智子(昭55)	藤原 篤子(昭63)
池田 正義(昭32)	柴田 浩子(昭33)	谷口 睦子(昭42)	岡 幸一(昭55)	江藤 裕子(平04)
池田 正明(昭32)	木村 恵一(昭34)	平越 孝平(昭42)	小川 博義(昭55)	深津 紀子(平06)
浮田 和也(昭32)	森田 康子(昭34)	山口 博行(昭42)	神原 由美(昭55)	山下 和紀(平08)
大谷 市郎(昭32)	柳田紀美枝(昭34)	匿名希望 (昭42)	北川 明子(昭55)	屋木 祐亮(平21)
大西 恭輔(昭32)	湯浅 忠男(昭34)	久米 和子(昭43)	杉浦 美智(昭55)	京薬五五会(昭32)
尾崎 将文(昭32)	渋谷 禎彦(昭35)	古本 靖弘(昭43)	杉野 裕子(昭55)	塩野義製薬株式会社
尾崎美代子(昭32)	梅谷 俊子(昭36)	古本 良子(昭43)	杉山 和子(昭55)	京薬会 有志一同
小田 雅岐(昭32)	小林 早苗(昭36)	村岡 孝子(昭43)	田中 順子(昭55)	微生会2010
片岡 勲(昭32)	新谷 昭法(昭36)	渡辺 温(昭43)	田中眞由美(昭55)	京薬会
加野 弘道(昭32)	林 智香子(昭36)	青山 昭策(昭44)	辻尾 邦恵(昭55)	

〈企業・団体・一般〉

阿倍 幸子 愛知株式会社京都営業所 近電商事株式会社 和研薬株式会社 匿名希望1社

〈法人役員・評議員・職員（五十音順）〉

蘆田 康子(理事)	北村 享子(助教)	白木太一郎(評議員)	長澤 吉則(准教授)	森田 和子(評議員)
飯居 宏美(助教)	久米 光(評議員)	高野 江里(課長)	西口 工司(教授)	安田 江里(助教)
乾 賢一(学長)	小里 芳顕(課長)	高山 明(教授)	浜崎 博(教授)	山口 泰秀(評議員)
入江 一充(監事)	後藤 直正(副学長)	武田 禮二(理事)	松井 常孝(評議員)	山下 豊彦(課長)
上西 潤一(教授)	近藤 伸子(課長補佐)	田村 正昭(理事長)	宮秋 昭(理事)	吉川 雅之(教授)
小関 稔(助教)	坂口由美子(主事)	辻本 雅之(講師)	宮本 茂敏(理事)	
加納 良章(主事)	坂根 稔康(准教授)	土田 花美(係長)	宮本 孝(課長)	
菊本 均(評議員)	佐々木善文(主幹)	土屋 勝(理事)	村澤 悟(局長)	
北出 達也(教授)	佐原 和美(係長)	長澤 一樹(教授)	村山猪一郎(監事)	

〈元教授（五十音順）〉

金澤 治男 佐藤 隆司 西野 武志 舟崎 紀昭

(2010年11月30日現在)